

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択（卒業）
授業科目名：社会福祉 英語表記：Social Welfare ナンバリング：2101		単位数：2単位 （半期）講義	担当教員名：浅野瞳 担当形態：単独
科目／系列	／保育の本質・目的に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／社会福祉		
【授業の到達目標及びテーマ】			
1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解するとともに、今後の社会福祉の動向と課題について理解する。			
2. 社会福祉の制度や実施体系、相談援助について理解する。			
3. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。			
【授業の概要】			
現代社会における社会福祉の意義や歴史的変遷の学びを通し、保育者として習得すべき社会福祉について全体像を理解できるよう学ぶ。また子ども家庭福祉の制度や実施体系を知り、現代社会の現状と課題、今後の動向・展望を理解し、子ども家庭福祉のあり方について学ぶ。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			
【授業計画】		【授業時間外の学習】	
第1回：現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷		・予習・復習には1～2時間程度の時間が必要である。	
第2回：社会福祉の一分野としての児童家庭福祉			
第3回：児童の人権擁護と社会福祉			
第4回：家庭支援と社会福祉			
第5回：社会福祉の制度と法体系		・授業前に提示する資料を読み、自分の考え・疑問点について整理しておくこと。	
第6回：社会福祉行財政と実施機関			
第7回：社会福祉施設等			
第8回：社会福祉の専門職・実施者		・授業後は、参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめること。	
第9回：社会保障および関連制度の概要			
第10回：相談援助の意義と原則			
第11回：相談援助の方法と技術			
第12回：社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ		・日頃から社会福祉に関するニュースをチェックしておくこと。	
第13回：少子高齢化社会への対応			
第14回：地域福祉推進とネットワーク			
第15回：社会福祉の諸外国の動向			
定期試験：筆記			

【授業の方法】 講義を中心に、演習（グループワーク）を取り入れた授業を行う。 Google Classroomを使用し、課題等の提出物に対し随時フィードバックを行う。	
【テキスト】 社会福祉〔第二版〕 志濃原亜美・編集 みらい	
【参考書・参考資料等】 授業にて適宜配布する。	
【学生に対する評価】 （課題等の評価にルーブリックを活用する） 小テスト(20%)、課題提出(30%)、定期試験(50%)	
【履修上の注意】 ・受講にあたっては、テキスト、配布資料を参考に事前事後の学習を行い積極的な姿勢で臨むこと。 ・グループワーク等の演習を通し、学んだ知識を、自らの言葉で伝える力を身に着けること。	
実務経験の有無：有	実務経験：元施設職員（社会福祉士）
【実務経験を生かした教育内容】 施設での相談業務経験を活かし、福祉施設の現状や職員としての心構えなどを習得できるよう視聴覚教材なども活用して授業を行う。	